



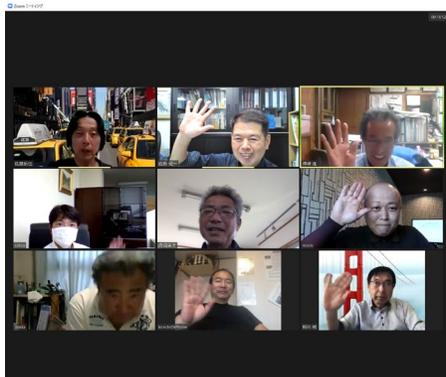
2020-2021 厚木県央RC

【高畑年度】

上期総括

[能勢の解説付き動画はコチラ](#)

今年度の変化①



【高畑年度開始前（理事役員予定者会議をzoomオンラインにて）】
思い起こせば、高畑年度が始まる前は、前回の緊急事態宣言発令。理事役員予定者会議もzoomオンラインで行いました。ほぼ皆さん初めての経験でしたが、無事に新しい年度を迎える事ができました！



【例会開始前の時間に「今日は何の日」紹介（佐藤SAA）】
1966年のこの日、TBSドラマで『ウルトラマン』の放映が開始された為、本日はウルトラマンの日として、日本記念日協会に登録されております。

皆さん、聞いているかな…



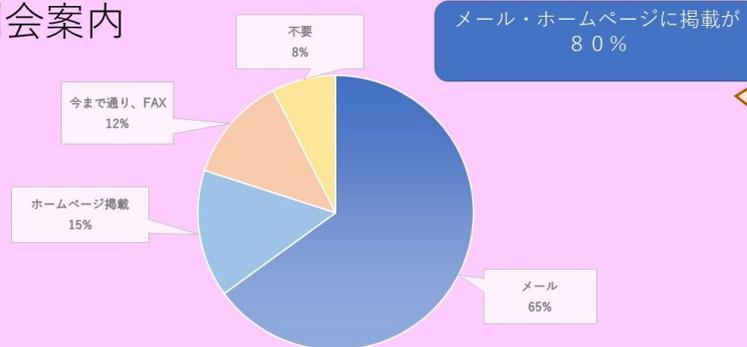
【新型コロナウイルス感染症対策】

アーバンホテル様の協力も多大。例会場の換気、検温計、アクリル板設置、マイク除菌スプレー、除菌シート…

今年度の変化②



例会案内



【例会案内・アジェンダをFAXからメール配信へ】

クラブ管理運営委員会によるアンケート調査の結果、想定以上にスマホやメールの利用度が高く、デジタル化に向けて舵を切りました。

皆さん、
見てくれているかな…

【ホームページ大幅リニューアル&例会を動画撮影】

厚木県央RCのホームページを大幅リニューアルして、最新の情報からスケジュール、例会の報告など、過去現在未来が分かり、会員の皆様に使いやすいサイトを目指しました。また、例会行事を動画で撮影し、厚木県央RCのホームページとYouTubeチャンネルに掲載しています。



7月度



①緊張の
第1回
会長TIME



②難波委員長より、システム変更について説明。今年度、大きなうねりをもたらした、デジタル改革。



③松本委員長によるボリュームたっぷりの前年度ラオス報告（後日、ロータリーの友に見開き2ページに渡る掲載の快挙！）



④お昼ノンアルコールでの親睦納涼例会。開催前の予想を覆す、大盛り上がりのトランプ大会！



8月度



①佐藤拓也
公共イメージ
委員長による卓話例
会
「ポリオの
歩みを学
び、我がク
ラブにでき
ること」



③座間 R C 前会
長
鈴木義隆様による卓話例会
「座間 R C 会員
増強成功までの
秘話・秘訣」

②伊藤会員と
荻野会員による職業卓話例
会「コロナ禍
における社会
環境、経営環
境の変化への
対応」

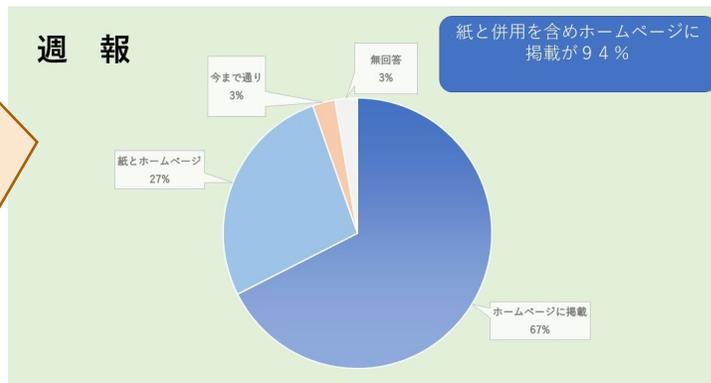


このあたりから
ホームページの
コンテンツが増
え始めます。
閲覧人気一番
は、メンバー
ページ
です

9 月 度



① クラブ管理運営委員会により、「週報・例会案内 FAX 等システム変更について」



② 松本奉仕プロジェクト委員長より、次年度地区補助金への取組みについて詳しく説明がありました。



③ 2780地区米山奨学、米山学友委員長常盤卓嗣様にお越しいただき米山奨学金について詳しくご説明をいただきました。



④ 第2780地区第6グループのガバナー補佐でいらっしゃいます、辻彰彦様にお越しいただきました。

10月度

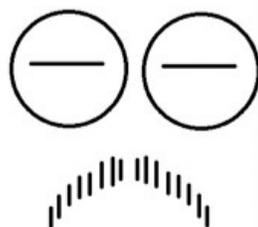


①今年度の補助金事業についての取組の報告と、赤尾さんとZOOMで繋がリラオスの現状報告を頂きました。



③地区財団資金推進委員田後委員長による卓話「ロータリー財団寄付のためのPR例会」

②久保田ガバナーの公式訪問。穏やかで、カッコイイ大人を感じのお人柄でした。



④ネパール支援「古着集荷梱包」重さ約300kg、募金は¥66,000-集まりました！

11月度

①チャーターナイト記念例会。コロナの影響で夜間を昼間に。ノンアルコールシャンパンでお祝いしました。



②地区公共イメージ委員会委員長 當間安弘様による卓話例会「効果的な広報活動」



③職業奉仕委員会担当のネポン工場見学。高畑年度初の移動例会。いつもと違った場所での点鐘に新鮮さを感じました。社員皆様の素晴らしい対応が印象的でした。



④7名の方に10組の地域活動団体をご紹介して頂きました。厳選して、今年度のIMで紹介します。

12月度



①クラブ協議会次年度理事役員及び会長ノミニーの選挙が行われ以下のメンバーが選出されました。

会長エレクト	和田 貴樹君
副会長	北村 正敏君
会長ノミニー	新川 勉君
幹事	松本 豊君
会計	森 志朗君
会員組織	守屋 孝則君
クラブ管理運営	荻野 洋一君
公共イメージ	伊藤 一君
奉仕プロジェクト	山口 昌興君
職業奉仕	春日 清則君



和田会長エレクトを中心に次年度を盛り上げて行って頂きたいと思います。黙ってても盛り上がる気もしますが^^

12月度②



①忘年例会（Xmas例会）も中止になり、荻野会員の豪華お弁当を配布する事に。来られなかった方に会長直筆のXmasカード発送しました。



②その他、厚木市少年野球大会のメダル授与式やソフトボールチャレンジカップへの協賛は継続しています。



12月度③



ロータリーの友12月号に、我がクラブの奉仕プロジェクト委員会松本委員長の寄稿がなんと見開き2ページにわたり堂々と掲載されました！当クラブの国際奉仕活動（ラオス支援）についての記事です。現地での写真も雰囲気よく掲載されていて、充実した活動の様子がうかがえます



Point

- 1 頼りになる人がいるか
言葉が通じても、きちんとした支援ができるかは限りません。現地の事情に詳しい人にプロジェクトに関する情報をもとらうと、いろいろな情報をもとらえます。
- 2 現地とクラブ関係をつなぐ
もし時期が合えばオンライン例会で、現地から活動の報告をしてみても、臨場感あふれるレポートで、現地に行けなかったクラブの仲間への理解を深められることでしょう。
- 3 どんなものを支援するか
今回はクラブ独自のプロジェクトだったため、クラブの判断で支援物資を決めましたが、グローバル補助金、地区補助金を使う場合、支援の内容に制約がある場合があります。

厚木県央RCは2018年に創立20周年を迎えたのを機に、初の国際奉仕活動として、ラオスのルアンパバーンにある小児病院の支援プロジェクトを実施しました。きっかけは、知り合いのロータリアンから、NPO法人が運営するラオ・フレンス小児病院で活動をしている看護師、赤尾和美さんについて聞いたことです（⇒Point 1）。

決め手となった理由

第一に、同NPO法人は、小児病院を恒久的に支援するのではなく2025年をめどに、県立小児病院として引き渡すことを目標とし、治療だけでなく現地の医師の教育も行っています。そのため私たちも期限を定めた支援活動ができ、奉仕活動の目標達成が確認できると思えました。

第二は、間に入る機関がないことで、事務経費などがからず、寄付金の全てが子どもたちのために使われ、かつ、クラブ予算内で子どもたちへ提供できる医療物資が1年間寄付できるため、限られた資金で多くの子どもたちの命を救えます。

第三は、赤尾さんの人柄と情熱です。海外から参加している医療スタッフが全員ボランティアという点にも感銘を受けました。日本人看護師は赤尾さん一人しかおらず、そんな中で山間部

の村へ訪問診療に出かけるなど、並大抵のことでは決してできない奉仕活動だと心を動かされました。

1回目の経験を経て、2回目

2018年初めて現地を訪れた際、現地と日本の例会場をインターネットでつなぎ、同時中継で例会を開催しました。ラオス訪問会員が現地から点鐘、立席率二会長（当時）と赤尾さんの対談を例会場のスクリーンで流した（⇒Point 2）。支援活動としては、点滴用シリンジ（注射筒）を寄贈。これは赤尾さんからのリクエストの一つで、できるだけ多くの子どもを救えるもの、という理由です（⇒Point 3）。

そして2回目は、病院についてより理解を深め、今後、ロータリー財団の補助金活用対象となる可能性を問うべく、2020年2月20日から現地に出かけました。本来なら9人で参加（会員数38人）の予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、5人で参加することに、安全管理上の問題、感染症対策、プライバシーの確保などの理由で、活動に制限がありました。

前回に引き続き、点滴用シリンジを提供。今回はクラブ予算から2,000ドル分を拠出しました。これで1年分使えるとのことですが、この他にも会員が折った千羽鶴やおもちゃを持参、その



あれれ、一人だけおそろいのシャツを着てない人が！会長を頼んで、おながりも成程？？

高橋孝夫会長エレクトの補綴が植髪をバイ君が通訳。「バイ君がそのまま髪の方がかかった」などと喜んではいけません。染髪担当は現原康文会員

現地のシャイな子どもにっころ

井賀明会長から赤尾さんに支援目録の贈呈

早起して僧侶の托鉢も見学

資金は、地元の駅前で買った街頭募金と会員からの寄付金を活用しました。

現地のことを知る

現地に着くと、赤尾さんが出迎えてくれました。ラオスの医療機関は非常に設備です。この小児病院は県立病院の敷地内にあるため、万が一、クラスターが起きてしまうと容易に医療体制が崩壊してしまいます。そのため、マスクを着用するよう厳しく言われました。ガイド兼通訳としては、日本語が堪能なバイ君がサポートをしてくれました（⇒Point 4）。

いよいよ活動開始

全員、ロータリーの公式ロゴが入ったおそろいのシャツを着て活動する予定でしたが、立席率は会長様の緊張から解放され、心も体も緩んだのかサイズが合わなくなり、1人、ロータリーの公式ロゴが付いているもの別々のシャツを着るようになりました（⇒Point 5）。

病院に到着後、すぐに活動開始。今回のテーマは「子供たちに笑顔を届ける」です。病院で過ごす子どもたちのために、輪投げと紙芝居を持参し、赤尾さんの指示に従い準備しました。シャイな国民性と言葉の壁があり、最初は遠慮がちだった子どもたちも次第に積極的に参加、楽しんでくれたと実感しました。持参したおもちゃは、単に手渡すだけではなく、コミュニケーションが取れるよう、ゲームの景品として渡しました。ただ予想外だったのは、喜ばれたいと思ったカプセルトイは不人気で、シャボン玉セットが好評でした。

子どもたちの交流後、病院内を見学しました。患者数に対してスペース不足を感じました。患者が多いため、廊下などにもベッドが置いてあり、病棟の軒下で毛布を敷いて仮眠を取っている付き添いの家族も……。今年から始めたという院内訪問も見学しました。この訪問は食料の自給により病院の食費を節約するとともに、栽培した作物を販売し、病院の運営費用に充てることも目的としています。クラブでは今後、医療支援とともに、農業等も奉仕活動の一環として検討したいと考えています（⇒Point 6）。

活動が終わって

最終日、ルアンパバーンの街の雰囲気を感じました。世界遺産にも指定されているこの街は、メコン川に面した仏教の聖地。まだ夜が明けない頃には僧侶の托鉢に町を歩く姿を見ることが出来ます（⇒Point 7）。

（※ 2780 地区 神谷川田）

- 4 現地のガイド
例えば現地にいる米山学友に連絡をしてみませんか。協力してくれるかも。母国での日本のロータリー活動を知ってもらえるいいチャンスです。現地の米山学友に連絡を取ってみたい場合は、米山記念奨学会にお問い合わせください。
- 5 ロータリーの公式ロゴ
せっかくロータリーの活動をするなら、ロータリーの公式ロゴ入りのシャツを着たり、旗を配ったりして、ロータリーを現地の人もも広報しましょう。
- 6 地元で問題を発見
クラブで支援したいことが決まったら、地区補助金もしくは、グローバル補助金を使う場合は、クラブが単独で実施する支援、支援の可能性が広がります。
- 7 観光
せっかく現地に来ているのですから、地元の雰囲気を感じてみるのも大切なこと。地元の名産品、地元の人やどんなものも食べて、どんな家に住んでいるのか……。ゴルフは少しの間、我慢。



以上、2020-2021上期総括でした！
下期もどうぞよろしくお願ひ致します。

